

話じやれ (12)

岐久 ようこ

ご無沙汰サンマ

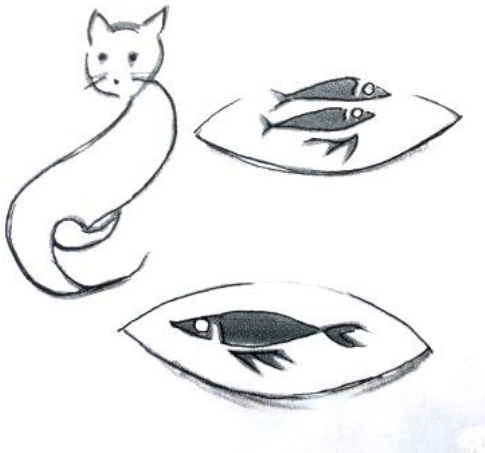
網に捕り入れられそうで
ドキドキ 息切れしそうだが
すぐに逃げられない！
アワビやアサリは定住性
海の底でいるものたちを尻目に
「そんな指定席みたいなどころより」
遊泳して自由に好みの領域をさがし
海流にそって泳ぐ回遊性
マグロやサンマ
「今年度の漁獲量はこれだけです」と
水産庁やその委託機関が示すが
「そんな枠きめられても」
「できるだけ多く捕りたい」
漁業者も生活がかかっているし
従って水産資源が減りそうに
だんだん小さい魚でもとって
「小規模な漁業者を優先的にして

それで増えたら大型船でとってヨ」
そんな騒ぎを聞いてか聞かずか

今秋

「サンマが予想以上にとれて」
まるまる太って里帰り

神様も 管理ができない 広い海
サンマ群 探知機でみて 手を合わす



若者につながる演歌

「サッチヤーン！」

小学生かそれとも孫のような幼い子か

歌っていると客席から声をかけてくれる

「この子たちは間違いないく

ネット社会の育ち」

この子たちから

「小林幸子の代表曲はこれだよ」と

言ってもらえたら

そんな思いが募って

演歌より一歩先を行こう！

電子音楽と演歌のコラボ

いままで演歌の中で一つの型を作ってきて

だから「型やぶり」が可能でしょ

そこをやって無いのにするのは「型なし」

機械は音域音程に優る

何オクターブでも何拍子でも

何時間でも歌い続ける

そんな機械やさんと

手を組んで

一緒に合わせて歌いだすと

負けられない意地が
いとおしくなるほど

新型の 演歌流行るか サッチヤーン
ハイハイイ ネット歌手と 申します



紅葉フラッシュ

緑の葉緑体がないと

葉っぱは生きていけない

「斑入り」の白い縦縞とかは

人間がキレイだからと

選抜して広がってきた

ただ まだら白抜き葉がキレイと

人だかりになって見物ほしめない

赤っぽい紅葉には人だかり

「もみじ色付き情報」が

世界にガイドブックされ

ムスリムの方には一日四回の礼拝堂の

できる場所まで載っている

押し寄せる外国人観光客

日光の東照宮のまわりも

「モミジ キレイ！」で埋まっている

「オジゾウサン！」道にそって並ぶ

よだれ掛けの小さなお地藏さま

「一、二、三、四、五……」

「アレ マチガエタ」数え直し

数えるたびに違う数になる

「モウ ヤメタ」
化け地藏の勝ち

落葉樹 なんでもあなたは 赤くなる
恥ずかしや 葉っぱだって おいボれる



サバナナの一本道

赤道付近のサバナナ

乾期が迫ってくるのを前に
ひとときわ動きが目立つ象の群れ

「どこへ行くの？」

キリマンジャロの麓の方角

お目当ては水しかない

日に百リットルは飲むから

「水を恵みたまえ」祈るように見上げる

千五百メートルも登ると

そこには昔の噴火口の窪みに

巨大植物のジャイアント・ロベリア

せつせと食べる象たち

「苦労して登ってきたんだ」

「ごほうびだよ」

食べ尽くせば更に三千メートルへ

象は仁王立ちになって

力強くドッシドッシと

「匂うなー」夕日に照り映える

ロベリアを見つけた

ガサガサッと食べて

「この鼻はだてじゃないよ」
フェイク ニュースかどうかも
みんな嗅ぎわかるんだから

人間は もうけ話に 耳かざし
いい匂い 象は花に 鼻かざす

